

ふるさと講座・自然系 オジロワシ・オオワシ観察会！

主にオジロワシ・オオワシを観察しますが、春の渡りの季節で、
たくさんの鳥たちが観察できるととても欲張りな観察会です。
ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 平成26年3月21日（金）
午前9時～12時
- 場 所 風蓮湖・走古丹方面
- 講 師 別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇 氏
- 集 合 郷土資料館へ9時までに集合
観察場所への移動は、当館で送迎しますが、自家用車
での移動もできます。
- 定 員 15名（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡
ください。）
- 持 物 双眼鏡・図鑑（当館で若干貸出しします。）長靴を必ず着用ください。



「ジオ・フェスティバル in Kushiro2014」

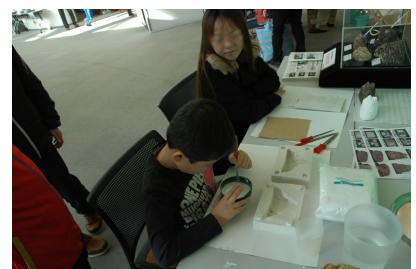
1月12日（日）釧路市子ども遊学館で開催された「ジオ・フェスティバル in Kushiro2014」に「野付半島沖で発見されたマンモスゾウ！」で出展しました。このイベントは、今年で3回目を迎え、地球科学のおもしろさ、不思議さを子どもたちをはじめ多くの人たちに伝えるために開催されています。

当館では、所蔵資料をより多くの方に見てもらおうと、マンモスゾウ臼歯化石3点・マンモスゾウ模型1点・解説パネル3枚を展示し、臼歯化石のレプリカづくりも行いました。

当日は、38の出展、9の研究発表・ショーがありました。来場者数は1,012名と過去最高となったそうで、たくさんの方々に当館の貴重な資料を見ていただきました。



展示の様子



レプリカ作り

シリーズ「近世の別海を探る 野付～その6～」

コイトイ

文献史料での標記は、「コイトイ」「コイト井」「コイトエ」「コエトイ」などがあります。

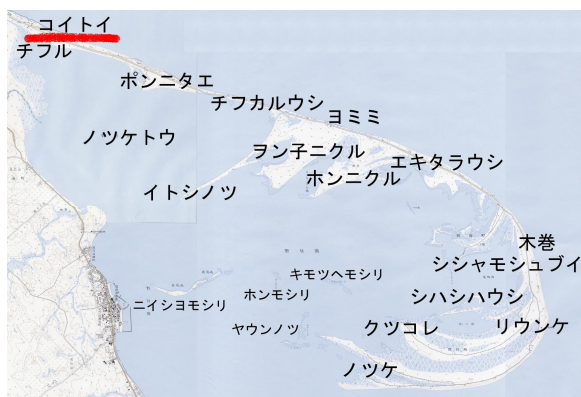
○地名の由来

〔コエトイ〕「浪切」

『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六末年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)

〔コイトイ〕

「茶志骨川の下流が、狭い海岸砂丘の後を流れている地帯の地名。明治の5万分図ではコイトウイエと書かれている。コイ・トウイエ (Koi-tuye 波が・破る) の意。この地名は道内に多い。どこも川の下流が海岸砂丘の後を横流ししている処で、海波が荒い時に、その砂丘を破って川に打ち込む処から呼ばれた名である。』『北海道の地名』山田秀三 昭和59年(1984)



○地勢・建物など

幕府直轄時代 寛政11年(1799)～文政3年(1820)

・「番屋」『東蝦夷地各場所様子大概書』松前藩 文化5年(1808)

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

・「蝦夷人居所之分」『松前嶋郷帳(天保郷帳)』松前藩 天保5年(1834)

・「字コイトエニ有 一出張漁小家壺ヶ所 長六間 横三間 子モロ持 外 茅蔵壺ヶ所」

・「字コイトエニ有 一小家 壺ヶ所 長七間 横七間 コイトエ持 御小休所部屋附船場 外 板蔵 壺ヶ所 茅蔵壺ヶ所」

『嘉永七年七月水野正左衛門様差上書面写壺冊青山弥惣右衛門様差上書面写壺冊』支配人善吉 嘉永7年(1854)

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

・「十六日 …コエトイに至る。止宿所あり。舟を上り小憩。黄蚊多し。白日人を刺す。利薺蜂の如し」
『協和私役』窪田子蔵 安政3年(1856)

・「元コエトエ 通行屋所 壺棟梁間 四間半桁行 七間半 但杵屋根 板蔵 壺棟梁間 三間桁行 四間 但前同断 板蔵 壺棟梁間 四間桁行 六間 但茅屋根」

『万延元年会津様江御引渡諸書付綴込式冊之内子モロ会処扣写』加賀伝蔵 万延元年(1860)

別海町郷土資料館だより No.175

発行日 平成26年2月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

あっという間に1月が終わりました。こんなに雪が降らない年も珍しく、気持ちのいい晴天が続きました。下旬には雨も降り、2月は天候不順な月になりそうな気配です。そうは言っても冬らしく寒い毎日が続きますが、この時期、野付半島や風蓮湖に集結するワシたちを観察して見てはいかがでしょうか？ 当館の観察会にもご参加下さい。(担当 KI)